

Toyama Institute of Glass Art 2022



富山ガラス造形研究所

Toyama Institute of Glass Art

〒930-0143

富山県富山市西金屋80番地

TEL 076-436-2973

FAX 076-436-2974

e-mail: tigainfo@toyamaglass.ac.jp

<https://toyamaglass.ac.jp>



富山ガラス造形研究所

ガラスの世界。
わたしと
まだ知らない、



わたしとガラスの
未見に出会う。



ごあいさつ



所長 恒川 哲二

当研究所は、プロのガラス造形作家の育成を目的として1991年に設立され、本年で32年目を迎えました。

この学校の特徴は、指導する教授陣が充実していること、設備が整った環境の中で、ガラスの専門教育を学べること、2名の外国人教師による指導や著名な海外作家によるワークショップ、交換留学制度など海外との交流が盛んであること、さらに様々な分野の講師による特別講義など、常に学生に刺激を与えられるようカリキュラムを充実させています。

570名の卒業生の多くは、プロのガラス作家として国内のみならず海外でも活躍しており、教員や卒業生はもとより、在学中の学生達も国際ガラス展や公募展などで数多くの受賞実績があります。

富山市では、「ガラスの街とやま」をまちづくりのひとつの柱として掲げ、約30年をかけてガラス芸術の振興に関する数々の施策を展開し、本研究所や富山ガラス工房、アーティストハウスの整備を行い、さらに2015年にはガラスの街づくりの集大成として、富山市ガラス美術館が開設され、ガラスの街にふさわしい環境ができています。

また当研究所においても、2010年には敷地内に学生宿舎棟、アーティストハウスを整備する等、教育環境の充実を図ってきています。現在、「ガラスを総合的・専門的に学ぶなら富山で…」と、海外留学生を含め37名が学んでいます。

新型コロナウイルスの感染防止に十分注意を払いながら、学生の皆さんのがラス造形の専門的知識や技能を習得し充実した学生生活を送ることができるよう、私たち教職員一同、全力でサポートします。本気でガラス作家を目指す、意欲あふれる皆さんの入学を期待します。



主任教授 本郷 仁

富山ガラス造形研究所は公立では日本初、また唯一のガラスアートの専門教育機関です。ここでの2年間のカリキュラムは、ガラス工芸に関する様々な技術の習得と素材を活かした造形表現の学習、そしてガラスの新たな可能性を研究する内容となっており、密度の高い専門教育を特徴としています。そして、研究所へ入学してくる学生達は、皆それぞれの夢を抱いて全国から集まり、ここで2年間学んだ後に、またそれぞれの道へ進みます。高度な手業を持つ工芸作家を目指す者、ガラスを素材とする造形作家を志す者、日常の生活を彩る器を制作する者、建築やインテリアなどの空間をデザインする者など、その進路は実に多彩ですが、卒業生達は当研究所で過ごした時間を夢の礎として、国内外の様々な分野で活動しています。

ところで、ガラスは今から4000年以上前には作られていたと言われますが、ガラスが造形素材として日本の教育に登場してからは、まだ40年余りしか経っていません。つまり、現代ガラスのステージは、今まさに始まったばかりと言えるのです。そしてまた、世界的に大きく変わりつつある今日の生活の中で、ものづくりの意義も見直されています。ここ富山ガラス造形研究所の学生は、今この時代に、ガラスに自身の未来を託して学んでおり、私たち教職員一同は、その一人ひとりの夢が叶うよう応援してまいります。

造形科



学習期間2年間の中で、
密度の高い
専門教育を行います。

ガラス造形に必要な基礎理論及び基礎的な技法の学習と、選択科目の中での自主的な創造活動を通して多彩な表現力や造形力を養い、造形の基礎になるデッサン・デザイン等の造形教育を重視します。



ホットワーク I HOTWORK I

■担当:ボイド・スギキ Boyd Sugiki、中神 牧子 Makiko Nakagami

ホットワークIでは、タンブラー、シンク、ボウル、ボトルなど、さまざまな形を形成するために必要な基礎を身につけます。共同制作などを通して、技術の習得と向上に取り組み、オーバーレイやケイン、チュープ制作では、さまざまな色ガラスの扱い方も学びます。



ホットワーク II HOTWORK II

■担当:中神 牧子 Makiko Nakagami、ボイド・スギキ Boyd Sugiki

一年次で学んだ吹きガラスの基礎から、二年次ではそれを発展させ高めていく場になります。デモンストレーションを見るここと、課題を通してアイデアを広げ、リサーチや実践、実験を行い、新しい可能性も探っていきます。また独自の作品を作成し展示をすることも学びます。



キルンワーク I・II KILNWORK

■担当:松藤 孝一 Koichi Matsufuji

一年次は、キルンワーク（電気炉でガラスを成形する作業）の基本的な技術を学びながら、ガラスの特性を見つけていく作業になります。

二年次は、初年度で学んだキルンワークの技法やガラスの特質をもとに、自作品のオリジナリティーを追求していきます。グループディスカッションや校外学習を通して様々な角度からガラスの作品化を目指します。

※二年次はキルンワークまたはコールドワークのどちらかを選択することになります。

コールドワーク I・II COLDWORK

■担当:ヤロスラフ・シャーラ Jaroslav Sara

このコースは、コールドワークの技術を基本に、美術や工芸を勉強することができます。学生は、授業の中でガラスのカット、研磨、サンドブラスト、接着を学びます。また課題の中で、吹きガラスやキルンワークなどの作品と組み合わせることにもチャレンジします。学生は、課題に取り組みながら、創りたい作品のデザインを学び、そして技術の習得だけではなく、自己の作品を完成させることに重点を置きます。



造形科



基礎造形 FOUNDATION

平面

もし自分を「物」で表すとしたらどんなものになるでしょうか。象徴または記号化の試みです。身の回りにある「特別な」物を描くデッサン、自分のための選りすぐりの色見本を作る、心引かれる形を収集する。自由な発想を大切に、感じた心を確かな表現で伝えることができるよう課題を構成しています。



立体

立体表現の美的要素を体系的に理解、習得するための導入部として、前期は「自然」をテーマに粘土、石膏の塊材を使用して、基本的な造形の探求を行います。後期は素材を主体的に選択する自由制作により、表現技術と素材の美的認識を深めていきます。



ガラス材料学

GLASS MATERIALS

■担当: 吉野 徹 Toru Yoshino

この講義では、材料学の研究者の視点から物質としてのガラスを学ぶことができます。「ガラスとは何か」というような分子構造の疑問から建材や工業製品のガラスに至るまで、最古の人工素材と言われるガラスの魅力に迫ります。隔年の開講になり、年間4回の講義が行われます。

ガラス工芸史

HISTORY OF GLASS ART

■担当: 島山 耕造 Kouzou Hatakeyama

この講義では、ガラスの起源から現代ガラスまで、幅広くガラスの歴史を学ぶことができます。時代を切り開く斬新な発想や、それを支える技術の展開をたどることで、現代の作り手に何か制作上のきっかけがもたらされることを期待します。隔年の開講になり、年間4回の講義が行われます。

選択科目 ELECTIVES

※二年間で二科目を選択することになります。

バーナーワーク

■担当: 猪野屋 牧子 Makiko Inoya

授業では酸素バーナーを使って、ホウケイ酸ガラスという一般的には理化学容器やガラス食器などに使われる耐熱ガラスを使用します。ガラスパーツを繋ぎ合わせて大きな作品を作ったり、管ガラスを使ってゴブレットを作る等、様々な技法や表現方法があります。この授業を、ガラスの様々な可能性と自分なりの表現を探る機会にして欲しいと思っています。

ステンドグラス

■担当: 八田 禅 Zen Hachida

言葉としてよく知られているステンドグラスは、鉛の影と透過する色ガラスの組み合わせと、技法をベースに認識されています。ここではそのガラス素材自体の追求、それから派生する技法の可能性、そして深く関わりを持つ建築空間での統合要素としての在り方について実習し、最終的に意義のある自己表現との接点を探ります。

ジュエリー

■担当: 森田 弘美 Hiromi Morita

ジュエリーの制作は幅が広く奥深いものです。最初の課題では彫金の基本である、糸鋸、ヤスリ、そしてロウ付け作業を総合的に学べるように、ペンダントを作成。次に銀を使い指輪を制作し、合間にキャストや七宝焼の技法も学びます。最後は自由制作として古典的なデザインから、現代的なものまで、今後の各自のテーマとなりうるような、独自の世界観を自由に表現することを目指し、修了制作としての集大成を発表してもらいます。

金属加工

■担当: 中村 滉雄 Takio Nakamura

金属は塑性を有し、加熱すれば変形が容易になり、冷却あるいは加工硬化させれば強固になります。その素材に切削・切断・曲げ・打撃などの加工を施し、さらに溶接をして接続していくけば多彩な造形が可能となります。また金属独特のマチエールを発見し引き出すことによって独自の造形作品として実現させることができます。特に近年、溶接は金属の造形に不可欠な手法であり、ガラス造形の表現域をも広げるツールになります。

研究科

ガラス作家として
オリジナリティの確立と
さらなる学習を行います。

担当教員の指導、助言を得ながら各自専攻テーマを設定し、立案した研究計画に基づき制作します。プロとしてのオリジナリティの確立とプレゼンテーション能力の向上を目指し、定期的に全教員と研究科学生合同で作品の検証を行います。



応用造形 APPLIED MODELING

■担当: 本郷 仁 Jin Hongo

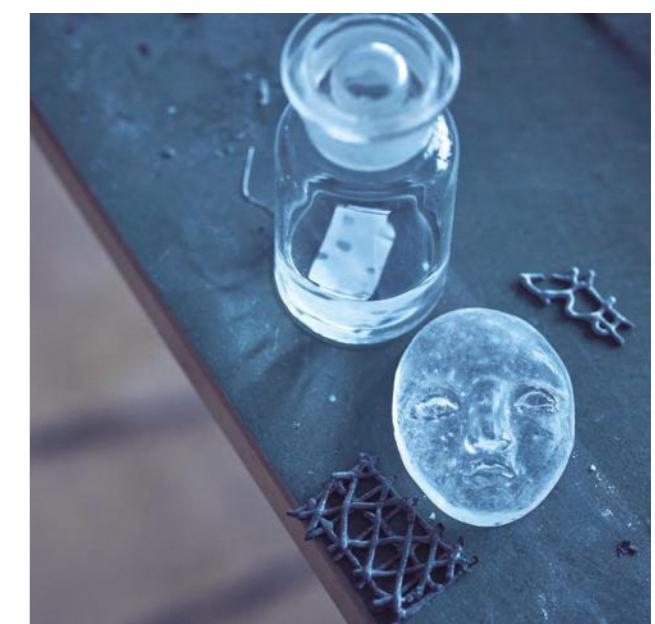
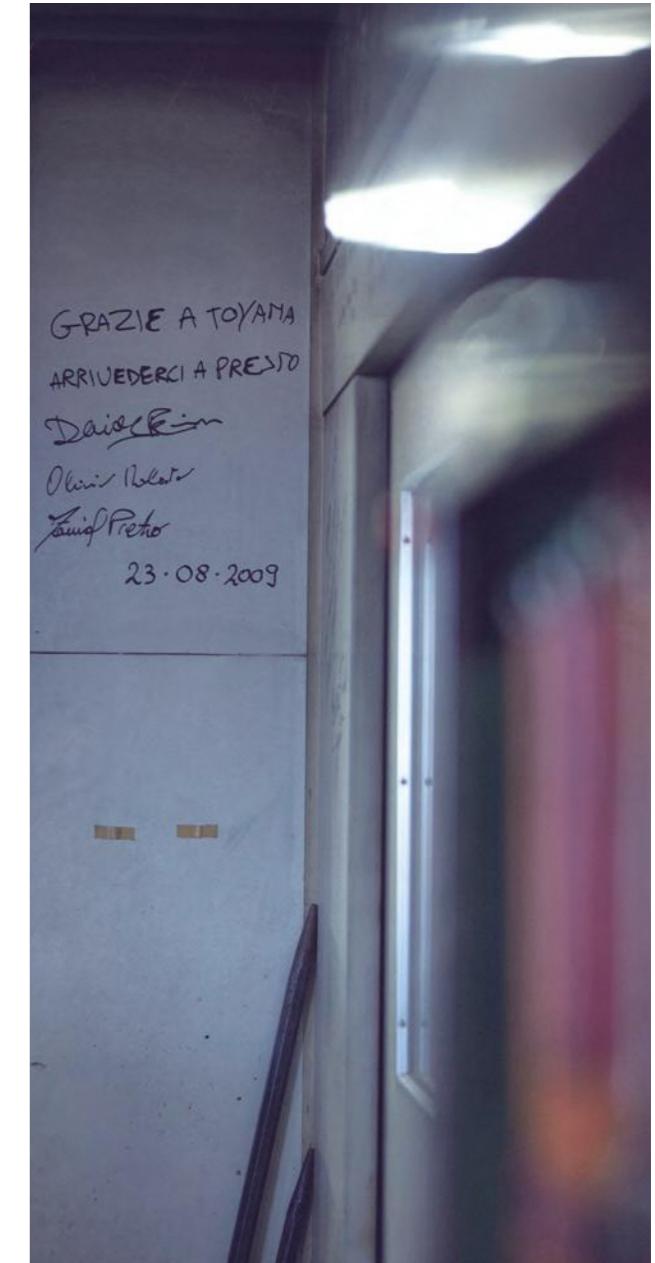
このクラスは研究科一年生のために設けられました。制作と批評のもとなる様々なテーマについてリサーチし、各自の制作についてより深く考えます。また制作実習では、様々な素材による造形演習をもとに、視覚言語としての造形基礎を学んでいきます。



研究 I・II・III RESEARCH

研究科では、5人の教授陣の指導のもと、一年次は各自の研究テーマに基づいて、作品の検証とアイデアの展開を進めていきます。二年次には作品のオリジナリティをより深め、修了制作へと進んでいきます。学生1人に対して1名の教員がチューターとして常に指導を行い、その担当教員を中心に教授陣が作品のアイディアから技術的な面までサポートをします。また、定期的に各教授陣の専門講義も組み込まれています。

渋谷良治制作アドバイザーによる助言も適宜、行っています。



造形科・研究科

各分野の現役アーティストから学ぶ

ワークショップ WORKSHOPS

年2回、国内外の著名なアーティストと制作する一週間



令和3年度 春のワークショップ講師 青木野枝氏

講評会 CRITIQUES

特別講師を招いて真剣な講評会

前期と後期の締め括り、そして卒業制作展の講評会に、当研究所5名の教授陣の他、外部より特別講師を招き、講評をしていただいている。この講評会では、いろいろな意見をいただき、次の作品制作に向けての指標にしていきます。

令和3年度 講評会講師
古澤 かおり（富山市ガラス美術館学芸員）
川本 敦久（金沢卯辰山工芸工房館長）
尺戸 智佳子（黒部市美術館学芸員）
秋元 雄史（東京藝術大学名誉教授、練馬区立美術館館長）
近藤 高弘（陶芸・美術作家）
武田 厚（美術評論家、富山ガラス造形研究所顧問）
日野田 崇（嵯峨美術大学教授（陶））



特別講義 SPECIAL LECTURES

様々な分野のアーティストによる特別講義

幅広い視野とグローバルな技術や考え方を身につけるために、現在国内外で活躍している著名作家を招聘して、春と秋に1週間のワークショップを行っています。その土日には、公開制作や学校説明会も開催しています。また秋のワークショップでは、学内展を開催して、学生の作品を紹介しています。※新型コロナウィルス感染症の状況によっては、一般に向けた公開制作や学校説明会は中止となることがあります。

令和3年度 ワークショップ講師
青木 野枝（彫刻家）
中川 佳宣（美術家、大阪芸術大学特任教授）
小林 俊和（ガラス作家）
南 佳織（ガラス作家）

広く見聞を深める目的で開講する特別講義は、現代アート、建築、彫刻、デザイン、陶芸等、ガラス以外にも様々な分野で活躍されている方を招き、2時間程度のスライドレクチャーを行っています。通常の授業では補うことのできないガラスの各種技法や、新しい表現方法、当研究所の卒業生の活動等も、この講義を通して紹介されます。

令和3年度 特別講義講師
bubun（陣めぐみ+陣信行）（ジュエリー制作ユニット）
岡村 嘉知郎（写真家）
クリスティーナ・マール（陶芸家）
岸本 耕平（ガラス作家）
西中 千人（ガラス造形作家）
栗林 隆（現代美術家）



令和3年度 特別講義講師 西中千人氏

各分野の現役アーティストから学ぶ

アーティスト・イン・レジデンス

ARTIST IN RESIDENCE



令和3年度 レジデンス作家 クリストイーナ・マール氏

現在12回目で、国内外で活動するガラス作家を公募し、約1ヶ月半、富山に滞在しながら作品を制作します。また、その滞在期間に一般向け公開講座や学生を対象とした講義などを通して、地域や学生との交流を図ります。レジデンスの後半、富山市ガラス美術館で個展形式の成果発表を行います。富山の自然豊かな環境の中で制作に取り組む事ができ、その成果は滞在期間終了後も作品として富山ガラス造形研究所に残っていきます。

卒業制作展

GRADUATE EXHIBITION

平成27年度より、卒業制作展を富山市ガラス美術館で行なっています。学生は、2年間の集大成として、ガラス作品を展示します。毎年、展示作品の中から優秀賞や特別審査員賞などが与えられます。令和元年度から卒業制作展記念講演会を開催し、昨年度は、東京藝術大学名誉教授・練馬区立美術館館長の秋元雄史氏を招き、講評会と特別レクチャーを行いました。また、9日間の展示期間に1,289名の方がご来場しました。

校外授業

研究所では、授業の一環として校外学習があります。それぞれの学年やクラスで、その専門分野の展覧会や工房などを見学します。

学外展示授業

研究所では、授業の一環として、学生主体で展覧会の企画から展示作業までを学びます。この経験が、卒業後の作家活動の手助けになります。

地域連携授業

平成30年度に、スタジオジブリと富山ガラス造形研究所の学生や教員が、富山市ガラス美術館展覧会「ジブリの大博覧会」のガラス作品(灯籠)を共同で制作しました。

研究生制度

リサーチ・スタディー（研究生）は1年、6ヶ月、3ヶ月の中から期間を選択し、ガラス制作の研究を行うことができます。出願資格は富山ガラス造形研究所研究科を卒業した方、またはこれと同等でガラス作家として2年以上の経験を有する方になります。

※年度によっては募集していないこともあります。

交換留学制度

研究所では、提携大学の協力により、交換留学制度を設けています。選ばれた学生は、約3ヶ月間、海外でガラスを学ぶことができます。

※年度によっては募集していないこともあります。

提携大学
国立大学キャンベラ美術学校（オーストラリア）
プラハ美術建築デザイン大学（チェコ）
ヘリットリートフェルト大学（オランダ）

海外研修助成金

海外では、数多くの短期ワークショップが毎年開催されます。学生は、夏休みを活用してそのワークショップに参加することができます。選ばれた学生は、提携校から助成金を得て、海外でガラスを学ぶことも可能です。

提携機関
アーバングラス（アメリカ）
コーニングガラス美術館（アメリカ）
ビルチャックガラス学校（アメリカ）
ヘイスタックマウンテン工芸学校（アメリカ）

Student Voice 学生の声



森安音仁 Otohitto Moriyasu

研究科2年生

将来の夢 卒業後は別の制作できる場所や工房などに務めて作家として制作していきたいと考えています。将来的には後進の育成にも興味があるので、教育機関に関わりたいと思っています。

入学したきっかけは

大阪芸術大学でガラスを専攻して学んでいたりガラスについて深めたいと思い進学を考えました。そのまま大学院という道もありましたが、違った環境で制作することで自分を成長させたい気持ちで入学を志しました。

研究所に入って

ガラス制作をするにはとても充実した環境にあると思います。設備、人材も優れており学校のすぐ隣には工房やショップがあり現役のガラス作家の制作を直に見ることもでき、とてもいい刺激になります。また特別講義やワークショップで他分野の作家の方の声を聞くことができるのも魅力的です。



「記憶の海 孤舟搖蕩」 ホットワーク、コールドワーク、2022年

Alumni Voice 卒業生の声

佐藤望美 Nozomi Sato



2018年造形科卒業

経歴

1993年 宮城県生まれ
2016年 東北生活文化大学生活美術学科 卒業
2018年 富山ガラス造形研究所 造形科卒業
グラススタジオポンテ 勤務(-2020年)
2021年 富山ガラス工房 所属



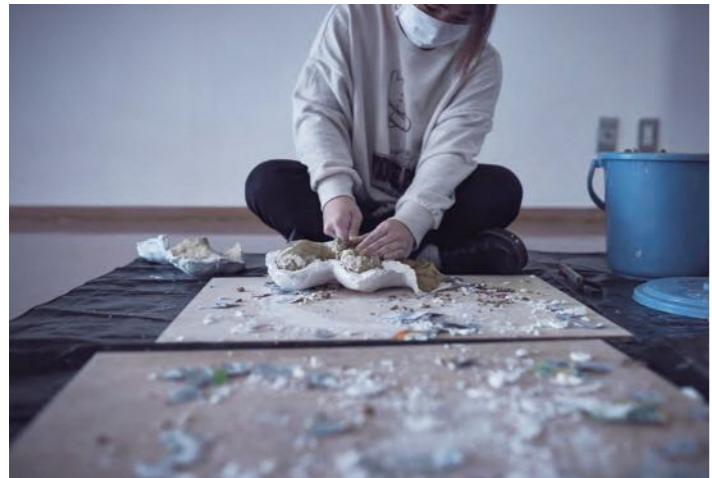
「命脈」 吹きガラス、2021年

ガラスという素材に惹かれたのは、中学2年生の時、画家の母の展示でイタリアに行ったムラーノ島でガラス作品を見たことがきっかけです。バーナーワークを学べる地元の宮城県の大学で基礎を4年間学びました。その後吹きガラス作家さんと知り合い、アシスタントをすることで吹きガラスを学びたいと思い、富山ガラス造形研究所に進学しました。

研究所での2年間は大学生活よりも更に濃い時間となりました。周りは「ガラスを学びたい」という同じ志のため、切磋琢磨して作品を生み出す事が出来ました。作品のことを助手さんや同級生と語り合ったり、どう制作するのが良いかなど一緒に悩み、協力して制作するのは研究所の魅力だと思います。

卒業後は、栃木県の個人工房で3年間吹きガラスの体験やガラス作品制作をしていました。現在は富山に戻り、富山ガラス工房に勤めています。富山に戻ってきたのは、多くのガラス作家さんとの繋がり、ガラス作品と触れることができたからです。人と繋がりの大切さを研究所にいる時に強く感じました。ぜひ研究所での人と人の、人とガラスの繋がりを大切にしてください。

Activity after TIGA 卒業後の進路



富山ガラス造形研究所は、全国で初めての公立のガラス造形教育機関として平成3年4月に開校し、これまで、造形科と研究科から多くの学生を送り出し、ガラス造形作家として富山市内はもとより国内外で活躍し、我が国のガラス芸術の発展に寄与しています。令和3年度卒業生の進路は、造形科から研究科などに進学4名のほか、民間のガラス工房や工場に就職5名、県内外で作家活動3名など、数多くの卒業生がガラス関係の道に進みます。

教員

FACULTY

海外講師を交えた各ジャンルの
プロフェッショナルに学ぶ

富山ガラス造形研究所は、42名の学生に対して、5名の経験豊富な専任教員陣、8名の非常勤講師と制作アドバイザーが指導をしています。また、常時2人の専任外国人教師を迎えており国際色にも恵まれています。それぞれの教員が作家としても制作をしており、国内外で活躍をしています。学生は、その指導やアドバイスを受けると同時に、制作過程なども身近に見て勉強ができる環境が整っています。

常時5名の助手が担当の授業で学生の制作をサポートし、学生により近い目線で、授業の指導も行っています。それぞれの助手が作家として、国内外で活動をしており、若手作家として世界に羽ばたいています。学生は、卒業後の活動を身近に知ることができます。

准教授
松藤 孝一
Koichi Matsufuji

担当：
■キルンワークI・キルンワークII
■研究 I・II・III

1995 愛知教育大学総合造形ガラスコース卒業
2001 イリノイ州立大学美術学部修士課程修了
(アメリカ合衆国)



「影と光の空」

准教授
ヤロスラフ・シャーラ
Jaroslav Sara

担当：
■コールドワークI・コールドワークII
■研究 I・II・III

2006 BcA, University of J. E. Purkyně, Faculty of Art and Design (チェコ共和国)
2009 MgA, University of J. E. Purkyně, Faculty of Art and Design (チェコ共和国)



「Der Täfer」

准教授
ボイド・スギキ
Boyd Sugiki

担当：
■ホットワークI・ホットワークII
■研究 I・II・III

1996 Master of Fine Arts, Rhode Island School of Design (アメリカ合衆国)
1991 Bachelor of Fine Arts, California College of Arts and Crafts (アメリカ合衆国)



「Striped Bowls」



主任教授
本郷 仁
Jin Hongo

担当：
■応用造形
■研究 I・II・III

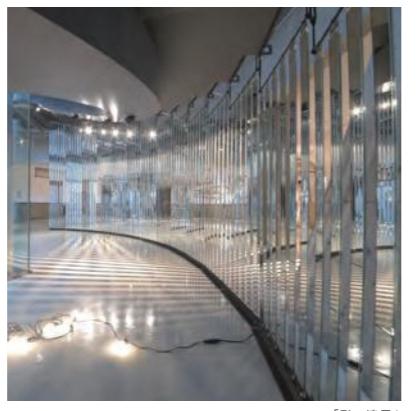
1987 東北大学工学部金属加工学科卒業
1990 東京ガラス工芸研究所研究科卒業



主任教授
中神 牧子
Makiko Nakagami

担当：
■ホットワークI・ホットワークII
■研究 I・II・III

1994 愛知教育大学総合造形ガラスコース卒業
1999 金沢卯辰山工芸工房研修者修了



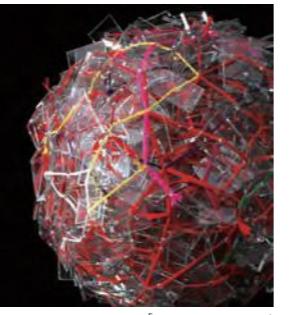
「融る境界」



「Who am I?」



「ICON #2010 Group」



「Mercurial Heart」



「Inside and Outside」



「孔雀の求愛」



「いつかのときを」



助手
吉積 彩乃
Ayano Yoshizumi



助手
橋本 亜紗
Asa Hashimoto



助手
草薙 聖子
Seiko Kusanagi



助手
野邊 晋亮
Shinsuke Nobe



助手
富永 一真
Kazuma Tominaga

設置学科

造形科 修業年限 2年 入学定員16人

■入学資格
高等学校卒業者及び卒業見込みの者、又はこれに準ずる学力があると認められる者。

研究科 修業年限2年 入学定員5人

■入学資格
当研究所造形科を卒業した者、又はこれと同等以上の知識、技能を有すると認められる者。
※美術系の大学を卒業した者など

入学者の選抜方法(令和4年度)

造形科

平面・立体実技試験/面接試験

※推薦入試はポートフォリオによる作品審査/面接試験
※日程など詳細は学生募集要項をご確認ください。

研究科

ポートフォリオによる作品審査/面接試験

※日程など詳細は学生募集要項をご確認ください。

入学考査料 18,000円

入学料 135,300円(富山市内居住者)

169,200円(その他の者)

授業料 390,000円(年額)

※令和4年4月1日現在

*奨学金制度(日本学生支援機構等)あり

*授業料減免制度あり

*学生用アパートあり(詳細はお問い合わせください)

●当研究所は、学校教育法第130条第2項の規定により認可を受けた富山市が設置した専修学校です。

●学生募集要項や入学願書は、250円分の切手を貼付の上、住所・氏名を記入した角2号封筒を同封して本研究所へ請求してください。

富山市は、ガラスの街づくりに取り組んでいます。詳しくは、富山市ホームページ内「ガラスの街とやま」をご覧ください。
<https://www.city.toyama.toyama.jp/>

富山ガラス工房 <https://www.toyama-garasukobo.jp/>
富山市ガラス美術館 <https://toyama-glass-art-museum.jp/>

ガラスの街とやま